令和8年 CS 活動報告会 まとめ

テーマ ：「子どもの自尊感情を高めるために」
～「学校運営に係る提言」をもとに考える～

1 岩根っ子の姿に表れている成果

- あいさつができる子どもが多く、あいさつをすると返してくれるなど、地域との日常な関わりが育っている。
- 学年を超えた交流が多く、あたたかく安心できる雰囲気がある。上級生が下級生を見守る姿も見られる。
- 子どもたちは優しく、地域や教職員の支えを受けながら、自分で考えて活動に取り組む力を伸ばしている。
- 土曜教室やホタルまつりなど、地域の人と関わる経験が、子どもの成長や地域とのつながりにつながっている。
- タブレット端末の活用や、地域ボランティアによる学習支援・見守りなど、学校を支える協力体制がある。

2 課題として挙げられたこと

- 児童数や地域の子どもの減少により、子ども同士・地域の人と出会い、話したり関わったりする機会が少なくなっている。
- 子どもが困ったときに助けを求めたり、自分の思いや考えを言葉で伝えたりする力を、さらに育てる必要がある。
- 子ども主体の行事や活動、放課後に外で遊ぶ姿が減っている地域もあり、子どもが活躍できる場づくりが求められる。
- コミュニティ・スクールの取組が地域に十分知られていない面があり、地域の人が参加しやすい機会や情根発信が必要である。
- 中学校進学への不安や学習面の課題がある。小中のつながりを深め、子どもが安心して次の段階へ進める環境づくりが大切である。
- SNS 上の言葉遣いや情報の扱いなど、相手を思いやり、適切に判断する力を育てる必要がある。

３ 今後に向けた取組の方向

- 地域の人が子どもと出会い、見守り、声をかける機会を増やす（見守り活動、地域行事、学習会、ボランティア等）。
- 子どもが自分の思いを伝え、助けを求め、互いの考えを理解できるよう、日常の対話や人権学習を充実させる。
- 子ども自身が考え、選び、挑戦できる活動や居場所をつくり、自尊感情と主体性を高める。
- 学校・家庭・地域が情報を共有し、コミュニティ・スクールの取組を発信するとともに、地域のつながりを継続・拡大する。
- 小中連携を進め、学び方や生活面について話し合う機会を設け、進学への不安を和らげる。
- SNS の使い方について学ぶ機会を設け、相手を尊重した言葉遣いや安全な利用について理解を深める。